

## 平成21年度東アジアプロジェクト研究報告

### ○プロジェクト名

東アジアにおける伝統と再生

### ○研究組織

研究代表者：高木智見

研究分担者：田中誠二、額額厚、橋本義則、馬彪

### ○研究の概要と結果

東アジア文化を理解するうえで最も本質的な問題であり、複雑な様相を呈する「伝統と再生」について、メンバー各自がそれぞれの専門分野においてその実態と性格を明らかにするための研究を行い、以下に列挙する着実な成果を上げた

### ○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

田中誠二

#### ○論文

田中誠二「萩藩後期の山代紙」（『山口大学文学会志』第61巻、2011年）

田中誠二「幕末期萩藩財政史研究序説」（『やまぐち学の構築』第7号、2011年）

額額 厚

#### ○単著

『新版 総力戦体制研究』東京：社会評論社、2010年10月、全165頁

#### ○共著

『歴史群像シリーズ 太平洋戦争9』学研パブリッシング、2010年12月、全135頁

#### ○自著翻訳出版

『쇼와천황과 일본패전』제이앤씨（韓国）、2010年10月、240頁

『我們的戦争責任』人間出版社（台湾）、2010年12月、全174頁

『我们的战争责任』人民日报出版社（中国）、2011年1月 全196頁

『何謂中日戦争？』人間出版社（台湾）、2011年3月、全204頁

#### ○論文

「海軍解体 終戦工作から海上警備隊創設」（『歴史読本』第855巻、2010年7月24日、128～133頁）

「日韓併合100周年を機会に問い直す」（『労働運動研究』第26号、2010年8月1日）

#### ○研究報告・講演・講義

「近代日本の天皇制と政軍関係」（中国：北京大学歴史系 集中講義Ⅰ 2010年9月15日）

「日中関係の課題と展望 アジア共生への道」（中国：東北大学外国語学院特別講義 2010年9月17日）

「台湾出兵と帝国日本の成立」(東亜歴史文化学会第二回大会 中国:遼寧師範大学 2010年9月23日)

「現台日関係の課題と展望」(台湾:国立政治大学 特別講義 2011年3月24日)

「戦後日本の保守政治と東アジア安全保障問題」(台湾:世新大学社会科学研究所 講演 2011年3月24日)

「海軍解体 終戦工作から海上警備隊創設」(『歴史読本』第855巻、128頁～133頁、2010年9月)

「日韓併合100周年を機会に問い直す」(『労働運動研究』第26号、2010年4月、3～12頁)

橋本義則

○共著

『東アジアと女の比較研究』(京都大学学術出版会 全432頁、2010年)

○論文

「日本古代の曲水宴」(『新羅古代庭園の総合的研究』韓国慶州市、2010年)

○学会発表

日本古代における廃都と遷都 東アジア比較都城史研究会 2011年1月

馬彪

○論文

「始皇帝が巡行した足跡を辿って」(『異文化交流研究施設ニューズレター』第11号、2010年8月、p3-5)

「龍崗秦簡にみる禁地「闌入」罪と関連律令」(『東洋史苑』第76号、2010年9月、p1-19)

「龍崗秦簡における「奴道」「甬道」「馳道」への検討」(『日本秦漢史学会会報』第10号、p151-172、2010年11月)

「秦代「禁苑(堦)」の空間構造とその由来—龍崗秦簡をめぐる検討—」(『山口大学文学会志』第61巻、2011年2月、p21-39)

「城址と墓葬に見える楚王城の非郡県治的性格」(『東アジア比較都城研究』京都大学学術出版会2011年2月、p91-105)

「雲夢楚王城における禁苑と沢官の二重性格」(『東アジア比較都城研究』京都大学学術出版会2011年2月、p259-268)

「古代中国帝王の巡幸と禁苑について」(『アジアの歴史と文化』第15号、2011年3月p15-30)

高木智見

○論文

「殷周革命」(『白川静の世界』三、平凡社、pp148～170、2010年9月)

「古代中国における欲利の克服」(『研究論集』第8集、121～130、2010年12月)

「修己と治人の間 漢代翕然考」(『名古屋大学東洋史研究報告』35、pp.1～36、2011年3月)

○自著翻訳出版

『先秦社会与思想—試論中国文化的核心』(上海古籍出版社、2011年3月)

○学会発表

「古代中国における欲利の克服」第8回日中学術討論会 龍谷大学2010年8月23日

---

## ○プロジェクト名

東アジアにおける文化伝承の研究

## ○研究組織

研究代表者：阿部泰記、湯川洋司

研究分担者：坪郷英彦、平野芳信、根ヶ山徹、森野正弘

研究協力者：王秋陽

## ○研究の概要と結果

伝承文化を見直す観点に立ち、東アジアにおける文化伝承の形態とその価値を明らかにするため、前年度に続いて文学と民俗の方面から具体的な研究を進める。

### 【研究概要】

1. 物語文学の誕生に関する分析を行う—物語文学は先行する説話を吸収しながら完成した。そこで本研究では日本の古代文学がいかなる説話伝承の影響を受けているかについて『源氏物語』を例にして解明する。本年度は平安期の文学作品である『源氏物語』に引用されている音楽に関連する説話について考察するため、古注釈書や楽書、説話集などに収録されている芸能説話を採集し、『源氏物語』への影響を明らかにする。(担当：森野正弘)

2. 近代文学における「話型論」の研究を行う—古典文学の「話型論」を近代文学に適用することにより、広く日本・韓国・中国における文学作品及び映像作品について、その話型（構造）を比較研究し、話型の発生する要因を分析する。本年度は前年度の成果を踏まえて村上春樹の作品だけに留まらず、より広範囲の作家及び作品（場合によっては、いわゆるサブカルチャー領域やヨーロッパ・アメリカ文化圏を含む）における話型論研究を展開する。

3. 演劇作品の伝承に関する研究を行う—演劇は時代や地域によって多様な変化を生じてきた。特に『牡丹亭還魂記』は後に数多くの版本が出版されている。そこで各版本間の字句の異同を分析し、脚本の受容史の研究に端緒をつける。本年度は清初の呉山三婦の評点本『牡丹亭還魂記』が多数ある『牡丹亭還魂記』のどの版本を底本に用いたのか、そのことがこの評点本にどのような特質を与えているのかについて考察する。

4. 語り物の時代変容に関する研究を行う—湖北省の語り物「湖北大鼓」が時代に即応するためその前身である「善書」をどのように変革していったかを明らかにする。他の芸能作品についても資料を収集してその変革の様子を明らかにする。(担当：阿部泰記)

5. 日本と中国における物質文化の比較研究を行う—祭礼における山車や舟といった象徴的構築物が祭りの中でどのように機能し、意味をもっているかを実証的に明らかにする。昨年度の中国貴州省の祭礼については文献調査等で資料整理を行う。本年度は日本の伝統的祭礼調査を実施し、日本の祭礼山車の機能についてまとめる。これまで民俗学的文化人類学的研究蓄積のある秋田県角館の祭礼「飾山囃子」山車を取り上げる。また、八王子市「八王子祭り」山車について補充調査を行う。(担当：坪郷英彦)

6. 日本における正月の祝いに関する諸儀礼の構造を把握し、比較民俗学的研究の観点を整理す

る。本年度は日本の正月を祝う行事や祝い方の方法について、これまで収集した資料を整理し、その特色を抽出する。(担当：湯川洋司)

#### 【研究結果】

1. 平安期の音楽について概括的に調査を行った。古記録や楽書、説話集などをもとに、雅楽の成立と展開、雅楽の種類と楽曲などを、平安期の文学作品に描かれた事例を交えながら総括した。(担当：森野正弘)
2. 村上春樹の最新作『1Q84』の基層部分に「オルフェウス譚」が存在することを指摘した論文と春樹文学全般に「話型」が潜在する観点から著書を発表した。(担当：平野芳信)
3. 明代における『牡丹亭還魂記』の伝播の様相について解明するため、明末の朱墨套印本、文林閣本『牡丹亭還魂記』が当時の演劇界のどのような主張にもとづいて出版されたのか、また後の『牡丹亭還魂記』出版にどのような影響を与えたのかを明らかにした。また、『新選南北樂府時調青崑』を素材として、その他の戯曲脚本の伝播の様相についても解明した。(担当：根ヶ山徹)
4. 湘北大鼓テキスト『五女興唐』を収集した。(担当：阿部泰記)
5. 中国承德市に立地する多くの寺廟の成立過程と現状の調査を行った。その中でラマ教寺院普寧寺の旧暦7月15日祭礼「孟蘭盆法会」を具体的に調査する機会に恵まれた。観察、聞き取りは象徴的構築物の有無、都市空間との関連性に注意しながら行った。私は基本的には動かない。従って寺以外の象徴的構築物はなく、僧侶を中心とした人の行動によって内容が構成される。「孟蘭盆法会」の概要及び寺の奉仕集団の活動についてまとめる予定である。これまで調査研究を進めた八王子祭礼山車について報告書をまとめた。(担当：坪郷英彦)

#### ○研究成果の一覧

##### (1) 学会誌等

- ・根ヶ山徹「試論文林閣刻本与朱墨套印本『牡丹亭還魂記』対後続版本的影響」、『湯頭祖与臨川四夢国際研討会論文匯編』、2010年4月、pp.135-150。
- ・根ヶ山徹「『新選南北樂府時調青崑』版本浅説」、『戯曲学報』第7号、2010年6月、pp.185-206。
- ・阿部泰記「案証与公案一従『躋春台』看公案小説」、古代文学研究現状与前瞻学術研討会論文集(山東大学)、2009年10月、pp.1-15。

##### (2) 口頭発表

- ・根ヶ山徹「試論文林閣刻本与朱墨套印本『牡丹亭還魂記』対後続版本的影響」、湯頭祖与臨川四夢国際研討会(於上海戯劇学院)、2010年4月26日。
- ・根ヶ山徹「『新選南北樂府時調青崑』版本浅説」、2010年戯曲国際学術研討会-地方戯曲(於台湾国立戯曲学院)、2010年10月20日。
- ・阿部泰記「案証与公案一従『躋春台』看公案小説」、古代文学研究現状与前瞻学術研討会(於山東大学)、2009年10月17日。

##### (3) 出版物(著者名、書名、出版物名、年月日、ページ)

- ・森野正弘『王朝文化を学ぶ人のために』「王朝文化と音楽」、世界思想社、2010年8月20日、59-86頁。

- ・平野芳信「『1 Q84』論—村上春樹のゆくえ—」、『村上春樹と小説の現在』、2010年3月、和泉書院、209～217頁。
- ・平野芳信『日本の作家100人 村上春樹 人と作品』、勉誠出版、2010年3月、312頁
- ・坪郷英彦他『八王子市指定有形文化財山車調査報告書』、八王子市教育委員会、2010年3月31日、8～55頁。

---

## ○プロジェクト名

グローバリゼーション下の東アジアの経済発展と諸問題

## ○研究組織

研究代表者：植村高久、成富 敬

研究分担者：立山紘毅、石 龍潭、朝水宗彦、古賀大介

研究協力者：斉 艦、HANNY ZURINA BINTI HAMZAH、丁 泰熙、Karki Purna Bahadur

## ○研究の概要と結果

サブプライム問題を発端とした2008年の金融危機と世界同時不況後の世界で、アメリカやヨーロッパへの輸出に支えられてきたかに見えた東アジア経済は、急激な輸出の縮小にもかかわらず、順調な経済成長を経験している。インドなど南アジアも含めて、東アジア経済の輸出主導型から内需主導型への転換は、同時にこれまでのグローバリゼーションの転換点とも考えられ、世界経済の軸芯が大西洋の両岸から太平洋・インド洋へと大転換しつつあるとも推察される。こうした歴史的転換を通じて、東アジア諸国及び世界経済がどのような軌跡を辿るかは、今後の世界のあり方をも長期にわたって規定するものとなる可能性もある。そこで、様々な領域から、並行して研究を進め、世界的な転換点の下にある東アジアの実相を確認することは、極めて重要な意義を持つといえる。

## ○研究成果の一覧

### (1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

石 龍潭「公文書非公開決定処分取消等請求事件 最高裁第1小法廷平成22年2月18日判決」（判例評釈）『季報 情報公開・個人情報保護』38巻2010年。

朝水宗彦「オセアニア島嶼部における教育と研究動向」『オセアニア教育研究誌』オセアニア教育学会、2010年9月

### (2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）

植村高久「価格論の説得力」経済理論学会第58回大会、2010年10月23日、関西大学

朝水宗彦「地方大学における英語開講科目の多様化」異文化間教育学会、2010年6月12日、奈良教育大学

Munehiko ASAMIZU, "Educational Multiculturalism", International Unity in Diversity Conference, Townsville Conventioncrnter, townsville, AUS., Aug. 20th, 2010.

古賀大介「第一次大戦前におけるイギリス・クリアリングバンクの国際業務」政治経済学・

経済史学会（東海部会）、名古屋大学経済学部、2011年1月29日。

(3) 出版物（著者名、書名、出版物名、年月日、ページ）

石 龍潭、藤原貞雄、植村高久他著（丸本卓哉他編）『中国内陸部 貴州省の持続的発展をめざして ——環境・農村・文化と人材育成——』2010年8月、文一総合出版。

菅原陽心、植村高久、山口重克他著（菅原陽心編）『中国社会主義市場経済の現在』2011年2月、御茶ノ水書房

古賀大介、他著『世界経済の歴史—グローバル経済史入門』名古屋大学出版会、2010。

---

○プロジェクト名

東アジアにおける医療供給体制と企業の役割

○研究組織

研究代表者：石田成則

研究分担者：李海峰、中田範夫、城下賢吾、有村貞則

研究協力者：王艶莉

○研究の概要と結果

これまで継続してきた研究プロジェクトでは、企業経営および市場の視点から、主に東アジアに進出しているグローバル企業の実態調査に従事し、その経営戦略、組織そして人材育成について研究してきた。また、サービス産業とくに東アジア諸国の人口高齢化を睨んで、医療・介護経営に特化して調査している。そして、病院を中心とした医療施設・介護福祉施設経営のあり方と医療供給体制や医療費管理に果たす企業の役割に焦点を絞り、それを理論と実証の観点から分析した。さらに、従来の実態調査結果を踏まえつつ、こうした産業・事業における問題点を抽出し、その解決のために政策提言を行った。具体的には、これまでに実施したアンケートおよびインタビュー調査を統計的に処理して分析するとともに、優れた経営力を持つ施設については事例研究として取りまとめた。そのうえで、患者や施設利用者へのサービス水準を向上させるために、どのような管理体制や組織を構築すべきか、またどのように人材を養成すべきかについて考察を加え、効果的な病院や施設マネジメントについて提言を行った。とくに、看護婦や介護福祉士の業務に焦点を当て、医療・介護事故を減らしてより高い水準のサービスを提供する方途を解明した。提言では、こうした職種のスキル向上のために、長期に安心して勤務できる体制作りが第一に重要とした。勤続年数の長期化のためには、1) 社内教育・研修体制の充実、2) スキルアップのためのモチベーションの向上、3) リスク情報の共有化、以上の3点が必要となることを指摘した。そして、こうした要因によりサービス水準がどの程度引き上げられるかについて、実証分析を展開し望ましい施策を考案した。

昨年度は、日中の医療保険制度の比較分析に着手した。中国の公的医療制度である新型合作医療保険制度（2003年に創設）を取り上げ、その制度のもとで、家計の医療支出がどのように変化したか、カクワニ指数を用いて検証した。その結果、カクワニ指数は年々低下しており、創設後から時系列でみて所得格差が拡大したことを確認した。全世界帯でみて医療費支出比率が年々大き

くなる一方、貧困層の支出率が急激に拡大している。また、医療費支出比率およびカクワニ指数の地域間格差も検証できた。

### ○研究成果の一覧

#### (1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

中田範夫「大規模病院の経営管理機能についての時点比較－平成18年調査と平成22年調査－」『山口経済学雑誌』第59巻第6号、平成23年3月、pp.21-47.

中田範夫「中規模病院の経営管理機能についての時点比較－平成18年調査と平成22年調査－」『山口経済学雑誌』第60巻第1号、平成23年5月、pp.1-25.

有村貞則「ダイバーシティ・マネジメント」『RE』（財団法人建築保全センター）No.170、2011年4月、pp.34-37.

石田成則「第9章 保険政策と保険規制」近見正彦・堀田一吉・江澤雅彦編著『保険学』有斐閣、平成23年5月、pp.231-255.

石田成則「生命保険が老後所得保障に果たす役割」『退職後所得保障制度研究会論文集』野村年金マネジメント研究会、平成23年8月、pp.3-20.

張曉・石田成則・王艶莉「新型合作医療保険制度の効率性改善への検証」（未定稿、レフェリー制雑誌へ投稿中）

#### (2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）

#### (3) 出版物（著者名、書名、出版物名、年月日、ページ）

石田ゼミナール『山口県下の介護福祉施設経営事例集』（全48頁）

---

### ○プロジェクト名

東アジアにおけるグローバリゼーションと格差社会

### ○研究組織

研究代表者：横田伸子

研究分担者：塚田広人、浜島清史、渡辺幹雄、横田尚俊、辻 正二

### ○研究の概要と結果

本プロジェクトは、上記テーマを軸に各研究者が各人の研究関心にそって研究を進める緩やかな共同研究組織である。従って、メンバーそれぞれの研究概要と結果を掲げる。

〈研究の概要〉

（横田伸子）

韓国における労働力の非正規化の実態について、統計分析と設問調査を実施した。

（塚田広人）

1. 上記テーマに関する文献を収集し、検討した。
2. 上記テーマに関する国際学術フォーラムを開催した。

(渡辺幹雄)

人間社会に存するさまざまな格差について、本来あってはならない格差のみならず、本来あるべき格差について論究を進めている。すでにJ・ロールズが喝破したように、いっさいの格差が否定されるとすれば、われわれの社会の組織化は不可能であり、そうであるとすれば、正当化される格差についての研究と分析が不可欠である。そのために、格差を是認すべきファクターとして何がありうるのかを、古代ギリシャやローマ、あるいは中世キリスト教社会、さらに「四書五経」にさかのぼって考究している。かかる古代・中世の格差論を近代以降の現代的格差論と突きあわせることを通じて、たんに一過性のものにとどまらない、裾野の広い格差論を展開できると期待している。

(浜島清史)

主に東アジアにおける福祉体制と労働市場及び社会階層論等の視点から、シンガポールにおける福祉体制ならびに「格差社会」の実態を、資料・文献収集及び現地視察を通して、構造的に把握しようとした。

(横田尚俊)

都市の急傾斜市街地（斜面都市）における地域社会および住民生活の現状とまちづくりの取り組みについて、今年度は長崎市十善寺地区と尾道市土堂地区（いずれも旧市街地の一部）を対象に、行政担当者および地元住民組織・NPOのリーダーに聞き取り調査を実施したほか、補足的に、斜面市街地の防災対策という観点から、2005年の福岡県西方沖地震により斜面市街地が壊滅的な被害を受け、その後大規模な復興事業を行った福岡市玄界島でも聞き取り調査を実施した。

〈結果〉

(横田伸子)

韓国の労働力の非正規化は、先進国型の正規労働者を非正規労働者に置き換えるという様態だけでなく、発展途上国における非公式部門と共通する性格を持つ部分（＝社会的脆弱階層）が大きいことがわかった。さらに、これら社会的脆弱階層の多くは女性によって占められ、顕著なジェンダー構造が見られることがわかった。

(塚田広人)

日本の子供の貧困に関する考察を行い、子どもの貧困と格差に関する重要な論点として「なぜ、どこまで子供の貧困が問題となるのか」を明確にする必要があった。それを考察するにあたり、社会成員の感じ方が重要であり、そこでは友愛性のあり方が重要な要素となることを結論として導き出した。

上記フォーラムで東アジアの格差状況について学び、それを基に現在、社会システム論の視点から日韓中の格差問題をどのように考察すべきかについての考えをまとめている。

(渡辺幹雄)

東西の古典的文献を読み解くための基本的な文献の準備に追われた。具体的には、古典ギリシャ語・ラテン語や中国の古文獻のための文法書や辞書を整備することに努めた。長足の進展は期待しえないが、これによって、格差をめぐる東西古典思想の比較研究が可能になり、たんに現代的な視野に拘束されない格差論の展望が開けつつある。とりわけ、正義にかなう格差にかんする東西両思想の交差は、格差についての普遍的な地平や問題意識の存在を示唆しており、自身の研究



にとって啓発的な発見であった。今後は早い時期に、この成果を論考として結実させたいと考えている。

(浜島清史)

シンガポールでは、老人ホーム大規模な病院があるところに産業集積するかのよう施設も地域的に集中している。これは日本と同じだが、シンガポールでは、同じ建物の別の階に異なる施設が並立してあり、国家による強い統制を窺わせるものである（実際、政府によって移動させられたと聞いた）。また高齢者の居住が多い地域と、施設の多い地域も重なっているようである。社会福祉が地域への権限委譲を求められていく流れの中で、シンガポールや日本においても、地域ごと地方自治体毎の福祉施設の研究が必要である。

(横田尚俊)

1 長崎市においても尾道市においても、急傾斜市街地の再生や住民生活の維持に向けた施策が展開されている。長崎市においては道路拡幅や生活道路（階段部）整備などが中心であるのに対して、尾道市においては空き家バンクを中心とした空き家再生と町並み景観保全が施策の核となっており、中心施策の内容・手法に相違が見られる。

2 長崎市においては、住民組織としてまちづくり協議会が結成され、行政と協議を行いながら地域の抱える諸課題の解決に向けて取り組んでいる。これに対して、尾道市の場合には、NPOが空き家バンク事業の担い手となり、空き家再生への意欲的な取り組みを進めており、対応の核となる住民組織にも違いが見られる。

## ○研究成果の一覧

以上のプロジェクト研究の成果として以下の業績を挙げておきたい。

塚田広人「阿部彩氏の子供の貧困研究に寄せて - 「貧困はなぜ問題か」についての一考察 -」、

『山口経済学雑誌』、第59巻第1・2号、2010年7月発行、1-35ページ。

浜島清史「第9章 シンガポール—国家の統制とミニマム名企業保障」末廣昭編（2010）『東アジア福祉システムの展望』ミネルヴァ書房、所収。pp.281-312。

横田伸子「1990年代以降の韓国における労働力の非正規化とジェンダー構造」法政大学大原社会問題研究所『大原社会問題研究所雑誌』No.632、2011年6月。

横田尚俊 チーフ編集幹事として、

地域社会学会編『新訂 キーワード社会学』ハーベスト社、2011年5月

の以下の部分を執筆。

「開発と福祉 総説」(pp.274~279、共著・筆頭著者)

「広域行政」(pp.186~187)、

「〈都市縮小〉とコンパクトシティ」(pp.300~301)

---

## ○プロジェクト名

東アジアにおける教育の現代的課題とその探求

## ○研究組織

研究代表者：葛崎偉、福田隆眞

研究分担者：藤原マリ子、名島潤慈、西村正登、村上林造、森下徹、石井由理、  
有元光彦、松岡勝彦

## ○研究の概要と結果

東アジアにおける教育の現代的課題について、教育学、心理学、教科教育、教育内容の分野において考察を行った。

教育学においては教員養成についての考察を台湾、シンガポール、マレーシアと西洋の教育アカデミーについても考察した。台湾においては少子化が加速し教員の採用が極めて減少し、台湾全土において教育大学の総合大学との合併が行われ、総合大学での教員養成の充実を進めている。シンガポールでは小学校教員の研修が活発に展開され始め、教員アカデミーを研修機関として設置し、適宜、教育学と教科教育の研修を促進している。特に、2009年度の教育課程の改訂によって、教員研修が活性化された。マレーシアの教員養成では、教育大学の高度化により教科内容の充実を図っている。全国の教員養成学院は教育省が統括することとなり、コアカリキュラムの充実を進めている。

教育課程においては、我が国は平成20年に教育課程の改訂を行い、平成23年に完全実施のための移行期間となっている。平成10年と元年の教育課程の改訂により、統合的、総合的な問題解決学習の実施から、基礎学力の低下を招き、平成20年の改訂では基礎的基本的内容の確実な教育と創造力、思考力、判断力、表現力などの育成を重視することになった。教育課程の総合的取り扱いと基礎学力の重視は東アジア諸国ではすでに進んでおり、統合的な教育課程から学力重視の系統的教育課程への転換と模索をしているといえる。そうした事例は韓国、台湾、中国、シンガポールにおける外国語教育、情報教育などに反映されてきている。

本プロジェクト研究ではこのような東アジアの教育の動向を踏まえて、教員養成、臨床心理、障害児教育、教育方法、文学、国語教育、歴史、情報教育、美術教育の分野で現代的課題の探求を行った。

## ○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

- ・西村正登、「教員養成所と教育アカデミーに対するシュブランガーの見解」、東アジア研究第9号、pp.55-73、2011
- ・名島潤慈、「臨床場面において用いられている心理テストの現況」山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、30、101-112、2010
- ・名島潤慈、「法然における宗教同一性の形成と成熟」、山口大学教育学部研究論叢、60、第3部、227-237、2010
- ・森下徹、「萩城下の都市民衆世界」、吉田伸之・伊藤毅編『伝統都市1 アイデア』東京大学出版会、2010年、131～156頁
- ・石井由理、「戦後の教育政策と高齢者の音楽文化」、『山口大学教育学部附属教育実践総合セ

- ンター研究紀要』30号、91-100、2010
- ・石井由理・塩原麻里、「日本の音楽に対する大学生と60歳以上の人々の認識」、『山口大学教育学部研究論叢』第60巻、15-26、2010
  - ・M.Nakata, S.Nishida, R.Fukuda, Q.W.Ge and M.Yoshimura, "A Method of Recognizing Handwritten Characters in Japanese Historical Documents by Using Feature Graphs", Information, Vol.13, No.3 (B), 2010
  - ・Yoshimasa MIWA, Yuki MURAKAMI, Qi-Wei GE, Chen LI, Hiroshi MATSUNO, Satoru MIYANO "Delay Time Determination for the Timed Petri Net Model of a Signaling Pathway Based on Its Structural Information", IEICE Trans., Vol.E93-A No.12 pp.2717-2729, 2010
  - ・Nan QU, Shingo YAMAGUCHI, Qi-Wei GE, "Parallel Degree of Well-Structured Workflow Nets", IEICE Trans. Vol.E93-A No.12 pp.2730-2739, 2010
- (2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）
- ・名島潤慈、「法然における宗教同一性の形成と成熟—二祖対面の夢と三昧発得記を中心にして」、第95回浄土宗教学高等講習会講義、於大本山増上寺（東京）、2010
  - ・名島潤慈、「法然における宗教同一性の形成と成熟—唐の善導との関係を軸にして」、第96回浄土宗教学高等講習会講義、於総本山知恩院（京都）、2010
  - ・藤原マリ子、「俳句を味わうために—季語と切れ字のはなし—」、山口国語教育学会、2010
  - ・藤原マリ子、「古典教科書における本文表記に関する問題提起」、言語と文芸の会大会、2010
- (3) 出版物（著者名、書名、出版物名、年月日、ページ）
- ・鑓幹八郎・名島潤慈（編著）、「心理臨床家の手引き 第3版」、誠信書房、2010
  - ・森下徹、「萩藩大坂蔵屋敷の成立」、塚田孝編『身分的周縁の比較史』清文堂出版、2010、31～59頁。